

# 箱根組ニュース

第233号 2012年 2月号

編集発行人 戸丸悟

箱根組は自然を大切にします！  
各自保険に入って山に登りましょう！

白、白、白！ 白銀の九鬼山。雪玉も作れないほどのパウダースノーの山道を登る！ 22,000歩。

1月9日(日)、東京駅7時20分発の中央線特別快速高尾行きに乗車。高尾で甲府行きに乗り換え、大月駅に8時57分着。9時4分発の富士急線河口湖行きに乗り換え、禾生駅に9時14分着。

雲一つない青空の駅前に降り立ったのは星野親子、宗像夫人、神山、戸丸の5名。スパッツなどの身支度、体操をして、9時30分歩きだす。

駅前から正面には道志方面の峰が見えている。すぐ国道139号の信号を左折。右側にはなだらかな九鬼山が目の前に見えている。畑は一面の雪だが5センチほどの積雪。右側には地図にはない最近出来たらしい立派な橋があり道志方面に道がつながっているらしい。正面にある国道の温度表示は0度。青空の下で気持ちがいいので寒さはあまり感じない。正面にリニアモーターカーの橋が九鬼山の下の特ネルから左に伸びている。

9時44分、落合橋を渡り川の先を鋭角に右に曲がると目の前に水道橋が現

れる。ヨーロッパを思わせるような洒落たレンガ造りのアーチが連なった形のデザインだ。水道橋をくぐり左に登るとすぐに分岐になる。

9時49分、左に行けば愛宕神社コースだが、右の杉山新道に入ってゆく。左方向を見るとリニアのコンクリートの橋の向こうに大菩薩や奥多摩方面の山並みが雪化粧をして並んでいて美しい。足元が少し凍りついていて慎重に歩く。熊出没注意の黄色い看板を過ぎると雪はだんだん柔らかくなってきた。気持ちが良い。名前の通り杉や檜の植林地の中の溝状の道を緩やかに登ってゆく。右側の小さな沢は氷結していて氷の下を水が流れる音がする。

10時3分、右のその沢を渡る。雪が多くなりふつくらとして柔らかい。積もった雪が竹をしならせて目の前のルートを塞いでいたりするが払い落としながら進む。

道はジグザグに九十九折に進む。振り返ると真っ白な富士山がこちらを見て



いる。富士山の右側に位置する台形の上にアンテナが二つ見える三ツ峠も堂々とした山容を見せている。

雪が少しずつつ多くなっているが小石や根が隠れてかえって歩きやすい。じわじわと高度を稼いで段々登ってゆく。下を見ると禾生方面が見えるが随分上っているのが分かる。

10時59分、「ハチのテラス」を通過。右側が落ちている日陰の斜面を歩くがかなり雪が多く真つ白だ。少し急な道を登ると目の前が明るくなってくる。

11時22分、弥生峠に到着。少し休憩するが尾根は風が少し吹いても寒い。気温はかなり低いはずだ。

脱いだ上着をもう一度着て出発。雑木林の尾根だ。尾根を右に巻くようになる

|       |          |          |
|-------|----------|----------|
| 現在の収支 | 繰越       | 46,632 円 |
| 切手購入  | -8,000 円 |          |
| 印刷費   | -3,000 円 |          |
| コピー   | -200 円   |          |
| 現在高   | 35,432 円 |          |

|       |       |     |
|-------|-------|-----|
| 切手残数  | 90円切手 | 36枚 |
| 80円切手 | 77枚   |     |
| 60円切手 | 40枚   |     |
| 50円切手 | 10枚   |     |

と南面になり雪は少しザラメ状になっている。木々の陰が白い雪に投影されて映画のようだ。(磯部徹先生の「夜更けの土蔵の白壁に、お月さんが」梅の枝を映している情景が浮かんできた。「何だろう、なんだろう、梅の花だよ！」素敵な歌だ。)

再び尾根に出る。見晴らしのいいところに出た。リニア見晴台と書いてある。今いる九鬼山の真下から高川山のトンネルに向かってリニアがつながっている。そして正面には大菩薩峠の白い尾根など山々の峰が連なっている。

12時3分、右、鈴懸峠からの尾根に出る。右に行けば高畑山や倉岳山につながっている。ずっと先には矢平山や高柄山もある。左、山頂を目指す。

12時13分、北側方面の山々が絶景の九鬼山山頂に到着。しかし日影で寒い。日本酒で乾杯し、それでも各自のお弁当に卵焼きなどのいつもの差し入れて豪華に。インスタント味噌汁もすぐに冷める。30分以内で手早く切り上げて記念撮影。

12時45分、雪の山頂を出発。さらさらのパウダースノーを蹴って降りてゆく。すぐに急なやせ尾根のくだりになる。凍結していないのでアイゼン無しで降りる。雪は

2月19日(日) 三浦富士(183m)に行きます。  
らくだコース(歩行2時間40分)  
横須賀線衣笠駅から京急バスで一騎塚下車。武山(200m)、砲台山(204m)を経由して三浦富士に。下山は京浜急行津久井浜駅に向かいます。

◆ 何か汁物を作る予定です。

持ち物 お弁当、飲料水、非常食、食器、箸、カップ、ポットにお湯、雨具、傘、スパッツ、タオル、着替え、ヘッドランプ(予備電池)、地図、筆記用具、救急薬品、(痛み止めスプレーなど)、健康保険証、ビニール袋、ちり紙(ロールペーパー)、予備靴紐、ライターかマッチ、ナイフ、ホイッスル、磁石、他、山と高原地図登山装備表などを参考に装備。

● 申し込みは2月17日(金)までに

集合 2月19日(日)  
JR 東京駅 横須賀線(1番線)  
7:25 発 久里浜行(前から3両目)  
途中駅発  
新橋 7:28 品川 7:33 西大井 7:38  
武蔵小杉:43 新川崎 7:46 横浜 7:56  
大船 8:14 衣笠駅 8:48 着(徒歩5分位)  
バス乗り換え  
衣笠十字路 9:07 発 三崎東岡行  
一騎塚 9:18 着  
交通費 行き 東京～衣笠 1,050 円  
衣笠十字路～一騎塚 230 円  
帰り 津久井浜～品川 830 円

●お申し込み・お問い合わせ  
Tel・Fax/ 03-3521-6898 戸丸  
戸丸携帯 090-4541-7066  
メール: tomaru.120made.go@docomo.ne.jp  
メール: tomarusatoru@hotmail.com  
箱根組ホームページ  
<http://www.geocities.jp/hakonegumi1991/>





かなり深い足を取られるほどではない。それでもかなりの傾斜なので慎重に降りてゆく。登りでなくてよかったと誰もが思う傾斜だ。細い馬の背のような下りもある。

1時8分、右に朝日小沢方面への道を分ける。猿橋駅バス営業所まで1時間40分とある。尾根正面目の前に馬立山下山左の看板がある。それを見て左に下りてゆく。左に落ちている斜面の雪深い中を楽しく下る。

1時10分頃、日影のコースになると風で粉雪が飛ばされたためかコースの踏み跡が消えかかっているところになる。先頭の星野さんと戸丸が交代する。雪も深く右に傾斜が落ち込んでいたがすぐに踏み跡がはっきりしてきてまた先頭を交代する。カモシカやウサギなどの足跡らしきものが沢山見られた。彼らは登山道を横切るように歩いたり、また登山道を一緒に歩いたりしているようだ。

1時30分、紺屋の休場に到着。少し広場になっていて景色も良い。

1時54分、札金峠手前の分岐を左に、まっすぐ行けば馬立山経由で猿橋駅に至る。いつかこのコースも歩いてみたい。ヒノキの植林の林になって少し行くと2時15分、広い林道に出る。

途中で猟師のおじさんが軽トラックで登ってきて犬を探しているとのことだった。猟の途中で2匹の猟犬が帰ってこないとのこと。一日探しているらしかった。すぐに戻ってきてまた色々な話をして下っていった。

集落に出て線路を渡ると今度は違う軽トラックに出会ったが荷台にはカモシカらしき動物が内臓をすっかり取られて空洞になったそのお腹をこちらに見せて通過していった。これが動物と人

間の現実の姿だ。

集落内をだいぶ歩いて3時前に田野倉駅に到着。この時間は1時間に一本位しかないがタイミングよく3時9分の電車に乗ることが出来た。

大月駅に到着。宗像夫人とここでお別れし4人は11月に寄ったお店に入る。神山さんが忘れた帽子をちゃんと保管しておいてくれた。まずビールで乾杯。餃子や堅焼きそばを注文し楽しんでいるとグラグラッと揺れた。それほど大きい地震と思わなかったが震度4近くあったらしい。お店のガスが止まって頼んだ野菜炒めがなかなか出てこなかった。その間に熱燗や焼酎もすすんでしまった。2時間ほど楽しんで打ち上げは終了した





